

榊原病院 Monthly

Vol.47 2021.March

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ

1991年富山医科薬科大学医学部卒

1996年同医学部大学院卒

2014年国立病院機構北陸病院精神科部長

2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。
日本司法精神医学会理事。



病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

【さらなるステージ(再生から成長)への期待を願って】

看護部長 佐藤 紳一

国立病院機構にお世話になって約30年が過ぎ、定年退職でこの三月末をもって榊原病院を去ることになりました。榊原病院では4年間お世話になりましたが、この病院に赴任するきっかけは村上前院長と西谷前看護部長と十数年来の知り合いということもあり、榊原病院の再建の取り組みを見届けたくなり赴任することとなったものです。当初は1~2年位と考えていましたが、病院の再生に協力していくうちに精神一般医療並びに児童思春期と医療観察法医療、そして、アルコール依存症をはじめ難治性精神疾患、自閉症、措置入院者退院支援の治療に関連した委託事業活動など、病院機能の拡大により地域に貢献する榊原病院を見ていくことが出来ました。

そして、病院の再生にはもう一つ病棟改修も含まれていました。病棟の老朽化と昔ながらの病室、トイレ、ディルームなどの構造は他病院と比べるとあまりにも見劣りする環境でしたが、現在は2つの病棟の改修工事が終わり、残り急性期病棟の改修工事も9月には完了します。入院治療において病棟の環境は、とても重要です。リニューアルした病棟の窓からは各場所に光が差し込み、とても明るく温かみを感じるものとなっています。スタッフステーションはオープンカウンターになりました。病院の理念である「この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である」に一歩でも近づくために、患者さんが身近に感じていただけるよう今まで以上に患者さんに寄り添い、社会復帰に向けた支援を多職種で実践していく病院へと変革していけるものと期待しています。

気がかりなのは、昨年度からの新型コロナウイルス感染症は経済、文化、交流、医療にと大きな影響をもたらし、人々の生活スタイルにも変化が出てきています。特に医療分野においては、2年前の正常な医療に戻れることを願ってやみませんが、今後の地域を含めた精神科医療に対する榊原病院の活躍をこころより願っております。

トピックス

行事・出来ごと

- 現在、建物の老朽化及び機能向上のため、病棟改修工事を行っております。病棟を入れ替えながらの改修となり、工事完了は令和3年9月を予定しています。
- 新型コロナウイルス対応として、入院患者様の外出、外泊、面会を制限させていただいております。情報は随時更新しておりますので、院内掲示やホームページで御確認願います。

診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
- ・ 専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数 176床

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 認知症ユニット



電車・バス/ 近鉄久居駅下車、三交バス(榊原温泉口駅行)にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車/ 久居インター(伊勢自動車道)より西へ約20分

自動車/ マイクロバス/久居駅より直通バス(約25分)

マイクロバス/



←第1期改修後の病棟をご覧いただけます。

〒514-1292 三重県津市榊原町777番地 代表電話 059-252-0211 地域医療連携室 059-252-0660

訪問看護ステーションゆうはあと 059-252-0122

<https://sakakibara.hosp.go.jp/>

F A X 059-252-0411

F A X

059-252-0280

F A X

059-252-0126

地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和3年2月までに全症例は111例となりました。新規導入は12月0例、1月0例、2月1例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状(BPSD)に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか。「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」(健康日本21)と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。

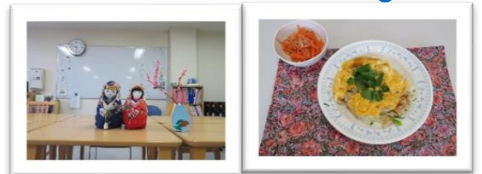


デイ・ケア案内

デイケアは新型コロナウイルス感染症予防のために、2021年1月18日より休止していましたが、3月8日より再開いたします。皆さまにはご不便をおかけしましたが、県独自の緊急警戒宣言が終了決定したことから、再開の決定に至りました。

デイケアは、ご利用の皆さまの地域生活が円滑に進むことを目的としています。心身の健康を保ち、周囲とのコミュニケーションを図り、皆様が自分の目的に向かっていけることを、職員一同サポートさせていただきたいと考えております。また、活動の中で自然と利用者の皆さまどうしが助け合う風土ができていくのが当院デイケアの特色です。どうぞ、デイケアを体験してみてください。

※ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しました。



(左)再開を待つデイケア室

(右)以前の調理プログラムから: 和風オムライス



栄養コラム

災害非常食の備え6割にとどまる!?あなたは大丈夫?

東日本大震災から今月の11日で10年を迎えます。平穏な日常を突如奪う自然災害、近年では豪雨による被害も毎年のように繰り返されています。自然災害は他人事ではなく明日は我が身です。皆さんはそんな災害時の備えをしてみえるでしょうか?令和元年度国民栄養調査によると、災害時に備えて非常食を用意している世帯の割合は、東海地区では60.6%と全国の53.6%より高い数値で関心の高さがみられます。しかし4割の方は用意されておらず、用意されている方の中でも3分確保されている方は6割にとどまっています。いろいろな店舗で災害非常食を目にするようになりました。まだ準備をされていない方は、これを機会に非常食の準備をご検討ください。

伊藤園様からお茶をいただきました!

伊藤園様より、医療従事者の方ということでお茶を提供いただきました。職員一同引き続き診療活動に全力を尽くします。伊藤園様、ありがとうございました。

